



今大会から競技方法が大きく変わり、予選ラウンド(クロスオーバーラウンド)、第2ラウンド、決勝ラウンドと決勝戦に分かれています。多くの敗者復活戦があり、最終的に強いチームが決勝に進むことになります。予選ラウンドは世界ランキング順にグループが分けられ、男女とも世界ランキング2位の日本は1位のカナダと数多く試合を行うこととなります。男子は最後の最後に決勝戦に滑り込みました。女子はカナダに続き2番目に決勝に残り、結果的には男女とも3位という成績で終わりました。選手たちは本当によく頑張ってくれました。いろいろなものを犠牲にしながら合宿に参加し、このワールドカップに臨んでくれました。その中で日本らしい戦い方をワールドカップで世界に発信できたと思います。それは、スピード、洗練された組織だった戦術、最後まであきらめない姿勢などです。それが見ている方を感動させ、世界中の人たちが日本を応援してくれることにつながったと思います。特にフランスの方々の日本に対する応援は感動的でした(いつも、いつのまにか日本の応援席にいて静かに応援しているフランスの若者もいました)。しかし、ヨーロッパ各国のレベルアップが顕著であることを世界に知らしめた大会でもありました。カナダの強さは相変わらずですが、これからは、どこが優勝してもおかしくない時代に入っていくかもしれません。



インターナショナルオープンについては、プロの部において国際武道大学のBudo Aが優勝し、MVPに石塚洗希選手が選ばれました。まさに日本の選手層の厚さや全体的なレベルの高さを見せることができたのではないかと考えます。

大会を終え、日本選手団は解散し、新たな体制で2021年のアジアカップ、2022年のワールドカップへのスタートを切ることになります。この大会での経験を次回ワールドカップに向けての競技力向上に生かすだけでなく、日本各地での普及活動にもつなげていく所存です。日本代表が今後の日本キンポールスポーツ連盟の普及活動にも大きく関わっていきますのでよろしくお願いします。



今回のワールドカップに際しまして、ご支援いただいた関係団体、クラウドファンディング等でご支援いただいた皆さま、日本から熱い声援を送っていただいた皆さまに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

また、今回は公益財団法人業務スーパージャパンドリーム財団 海外派遣支援事業の支援を受け、選手やコーチ陣の財政的な負担がいつもよりも軽くなったことを報告いたします。

